

🎬 ～ 1 9 7 9 ～ 🎬

アルゴ

A R G O

映画で学ぶ 「実話映画の脚色」

対象：中学生以上

名前

年 組

1 「実話にもとづく」は、どこまで本当？

映画の最初に「実話にもとづく」と出ると、私たちはつい「全部本当にあったこと」と思ってしまいます。でも映画は、**出来事を短くしたり、盛り上げたり、変えたり**することがあります。

🎬 「実話にもとづく」は「全部本当」ではない。

🔑 ニセモノの映画で救出作戦！？

1979年、イランのアメリカ大使館から逃げ出した6人を救うため、CIAは「偽のSF映画の撮影スタッフ」に見せかけて出国させる作戦を実行しました。この作戦は、1997年まで秘密にされていました。

※映画の一部の場面は、盛り上げるための創作とされています。

2 実話映画を見る4つの視点

■ ① 「実話」を分解する

何が事実で、何が映画のための創作か分けてみる。

■ ② 誰の視点で語られる？

誰が主役になり、誰の役割が小さくなっている？

■ ③ 別の資料で確かめる

記録や当事者の話など、映画以外と比べてみる。

■ ④ 「うそ」にも力がある

偽の映画の宣伝が、本物だと信じられた。なぜ？

3 映画『アルゴ』とは

あらすじ

大使館から逃げた6人が見つければ、命の危険があります。CIAのトニー・メンデスは「偽のSF映画をつくる」という大胆な作戦を思いつき、ハリウッドの協力で脚本や宣伝、記者発表まで用意します。メンデスはイランに入り、6人に「撮影スタッフ」としての身分を覚えさせ、空港での出国に挑みます。

映画と事実のちがい

空港での息づまる追跡場面は、盛り上げるための創作とされています。また、実際にはカナダ大使らが大きな役割を果たしましたが、映画ではCIAの活躍が中心に描かれ、批判もありました。

見るときの心がまえ

「この場面は本当にあったこと？ それとも映画のための演出？」と考えながら見ましょう。

4 事実と脚色を分けるワーク

 映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① 「創作かもしれない」と思った場面はどこ？ その理由は？

② 映画はなぜ、事実を変えたり盛り上げたりするのだと思う？

③ カナダの役割が小さく描かれたことを、どう考える？

④ 実話映画を見たあと、どうやって事実を確かめる？

5 ふりかえり

「実話にもとづく映画」にも、_____が加えられていると分かりました。これから実話映画を見たときは、_____をしたいです。

 『『実話にもとづく』は『全部本当』ではない。』

先生・保護者へ：『アルゴ』は日本で映倫Gです。冒頭に大使館の占拠や群衆の暴力的な場面があります。本資料は中学生以上を想定しています。イラン革命やアメリカとイランの関係を簡単に補い、特定の国や宗教への偏見につながらないよう「当時の政治状況」として扱ってください。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。